

# NO.217 アップサイクルプロジェクトによるウェルフェアトレードの実現

## —未利用繊維素材の活用と障害者雇用問題の改善—

井澤研究室 インテリア・プロダクト分野 A20AB071 宗宮歩奈 A20AB128 森田圭香

### 1.本プロジェクトの背景

本プロジェクトは繊維商社と大学及び障害者就労支援施設の産学福が連携し、アップサイクル製品を企画・製作・販売するものである。

プロジェクトのブランド名「ulula（ウルラ）」はフクロウの意味を持ち、「固定観念に捉われず、自由なデザインのものを作る。」、「お客様がエシカル消費に関わる切っ掛けとなる商品を販売し、幸せで持続可能な社会に貢献すること。」を目指し、2022年1月から第一期が活動を開始し、2023年度で第二期の取り組みとなる。

### 2.プロジェクトの概要と活動体制

本プロジェクトでは、瀧定名古屋株式会社婦人服地32課（以下瀧定とする）提供の未利用繊維素材を活用し、井澤研究室が企画・デザインを担当、社会福祉法人名古屋身体障害者福祉連合会第一ワークス・第一デイサービス（以下名身連とする）が製作・縫製を担当している。その他にフェアトレード名古屋ネットワーク代表理事の原田さとみ氏がフェアトレードに関するイベントの出店提案、後述するスモック受注のコーディネートなどの総括部分を担っている。また、スモックについては、スタイリストからデザイン協力を得、瀧定からはパターン指導を受けている。商品企画については、関連団体及び個人が参加する企画会議を経て、商品化されている（図1）。

学生の体制としては、メインで活動する井澤研究室の2名と、学科内で募集したサポートメンバー7名の合計9名で活動を行っている。販売については、オアシス21や久屋大通公園などで行われるフェアトレード関連のイベントでの出店が主であり、アクセサリーやバッグなどの物販を行っている。

物販だけでなく、オリジナルアクセサリーを作るWSも実施している。WSを行うことで、廃棄素材の存在や、障がい者の技術力をより身近に感じてもらい、意識を高めてもらうことを目的としている。

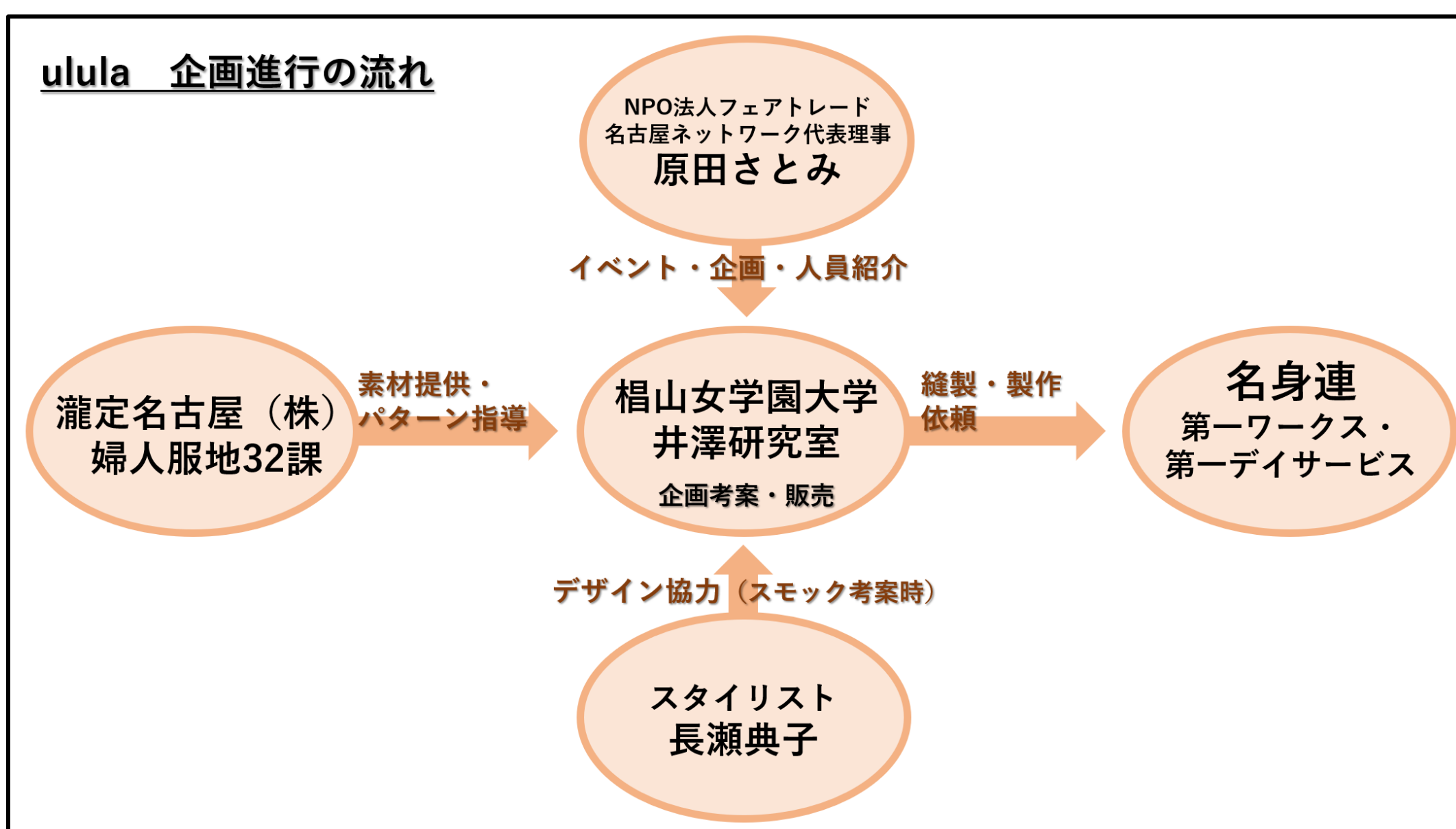


図1 ulula全体の流れイメージ

### 3. 2023年度の目的

2023年度はululaが掲げる8つの目的の中の「雇用創出」に注目する。2022年度は、障害者雇用創出を謳いながらも、学生の作業量が多くなってしまっていた実態があったため、より障害者が活躍できるようにすることに重点を置き、発注方法の見直し・商品デザインの工夫を行い、本来の意味で障害者の活躍を推進することを目的とする。活動を通して、社会福祉を意味するWelfareと公正な取引を意味するFair Tradeを掛け合わせた「WelfareTrade（ウェルフェアトレード）」の実現を目指す（図2）。

	従来の作業所製品販売	ウェルフェアトレード
価格	一般の市場の仕組みの理解や感覚の不足から必要以上に安い価格設定	消費者に受け入れられる価格と、作り手売り手が利益を得られる価格設定
商品	商品価値よりも「量産性」を優先した製品づくり	能力や資源を工夫・活用し、手にした人が喜ぶ価値を生む製品づくり
売り場	世間一般にあるショップと比べると足を運びにくい売り場やwebサイト	大勢の人が集まる商業施設など 明るい売り場
対象	すでに障害のある人と関わりがある限られた人たち（身内買い） どちらかという「買ってあげる」という人たち	普段は障害者と関わることのない 大多数の人達

図2 従来のスタイルとウェルフェアトレードの比較

### 4. 2023年度の活動スケジュール

2023年3月から第二期の活動が始まり、毎月開催されるオアシス21日曜アトリエをはじめとした数多くのフェアトレード関連のイベントに参加した（表1）。

表1 2023年度活動スケジュール

1/10	ulula第1回会議 新プロジェクト（ミモザ・カモミールのアクセサリー）の提案
3/18	星が丘天文台マルシェ（雨天中止）
3/27	パタンナー藤本裕美氏の布花づくりワークショップ（オンライン）
4/12	企業 フードロス削減プロジェクトについての説明会
4/27	瀧定名古屋 未利用繊維素材がどういった経緯で生まれるのかについての説明会
5/10	ulula第2回会議 エコバッグ打ち合わせ
6/21	企業 フードロス削減プロジェクト ノベルティエコバッグプレゼン
6/30	ulula第3回会議 スモックデザイン打ち合わせ
7/3	オアシス21日曜アトリエ アクセサリー販売・WS実施
7/12	memorytree保育室長久手園 現地調査
8/13	オアシス21日曜アトリエ アクセサリー販売・WS実施
8/26	名古屋ささしまライブ WS実施
8/27	〃
8/29	ZIP-FM収録 プロジェクトについてのインタビュー、イベント告知
9/12	東海テレビ取材（名身連） 名身連での作業風景、インタビュー
9/16	環境デー名古屋2023フェアトレード祭り アクセサリー販売、WS実施
9/28	東海テレビ取材（椋山） 学生の企画・サポートメンバーの作業風景、インタビュー
10/5	SDGs Aichi Expo アクセサリー・あずま袋販売・WS実施
10/6	〃
10/7	〃
11/3	瀧定名古屋 稲荷祭 WSメイン（物販も実施）
11/19	オアシス21日曜アトリエ アクセサリー・あずま袋販売・WS実施
12/10	オアシス21日曜アトリエ アクセサリー・あずま袋販売・WS実施

## 5. 繊維商社の実態と将来像

ファッションの世界では毎年のように新しい流行が生まれ、国内ではそれに合わせて膨大な量の衣料製品が、絶えずあふれるほどに供給されている。その一方で、年間およそ51万トン近くにも上る衣料廃棄物が発生している。市場に衣服として出回っているものに関しては衣料品の補修サービスや、古着市場でのリユース・アップサイクルなどの取り組みが進んでいる。しかし、衣服になる前の生地メーカーとアパレルメーカー間で扱われるサンプル生地などの、市場に出回るまでの段階でしか使われない生地が多く存在し、それらの未利用繊維素材の廃棄物に関しては、存在自体の認知があまり進んでいないため問題視されにくく、活用があまり進んでいない現状がある。そこで、これまで廃棄物として処分されてしまっていた未利用繊維素材への周知を高め、価値を認めてもらうことにより、活用の幅を広げ、未利用繊維素材の廃棄低減を目指す。

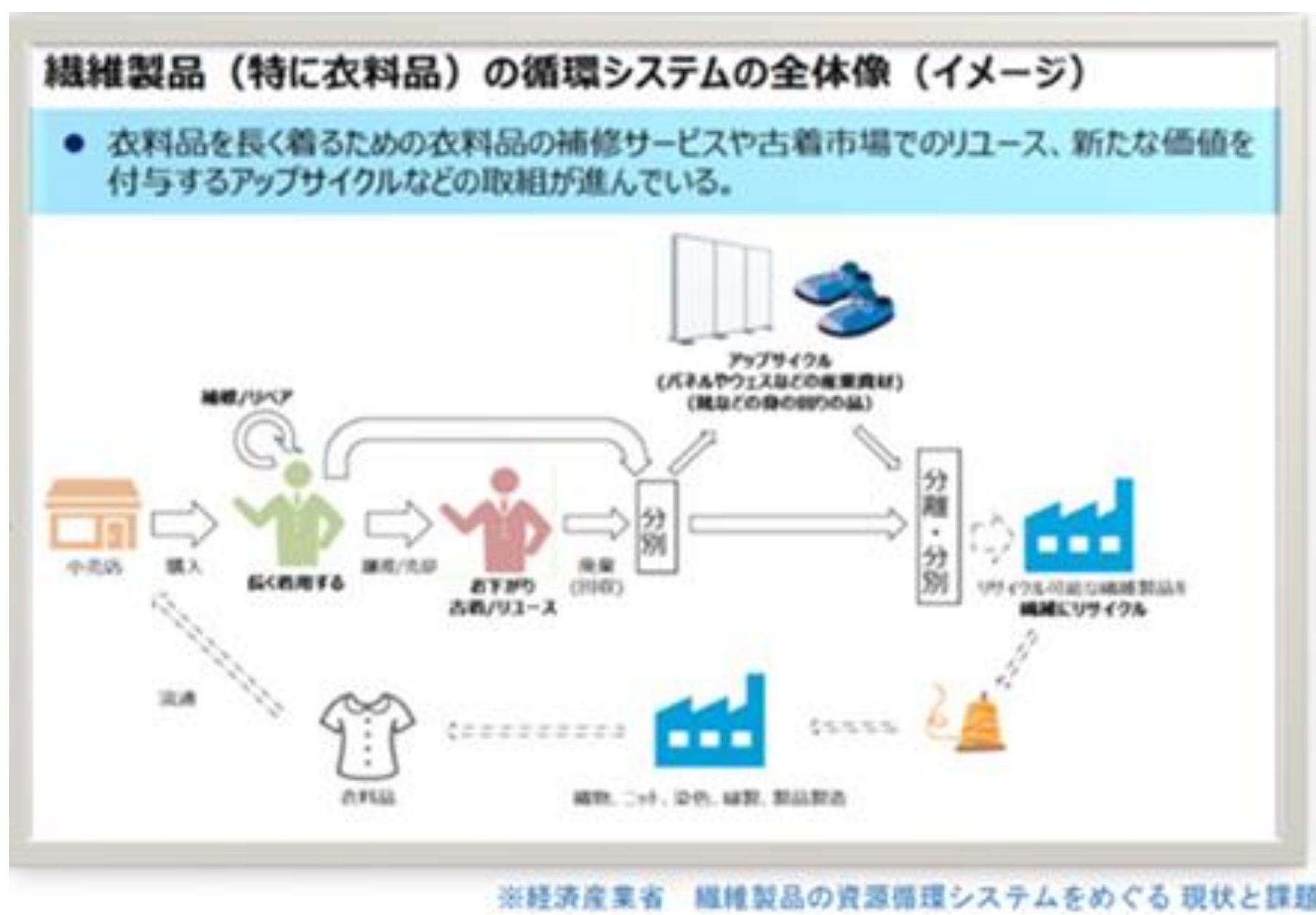
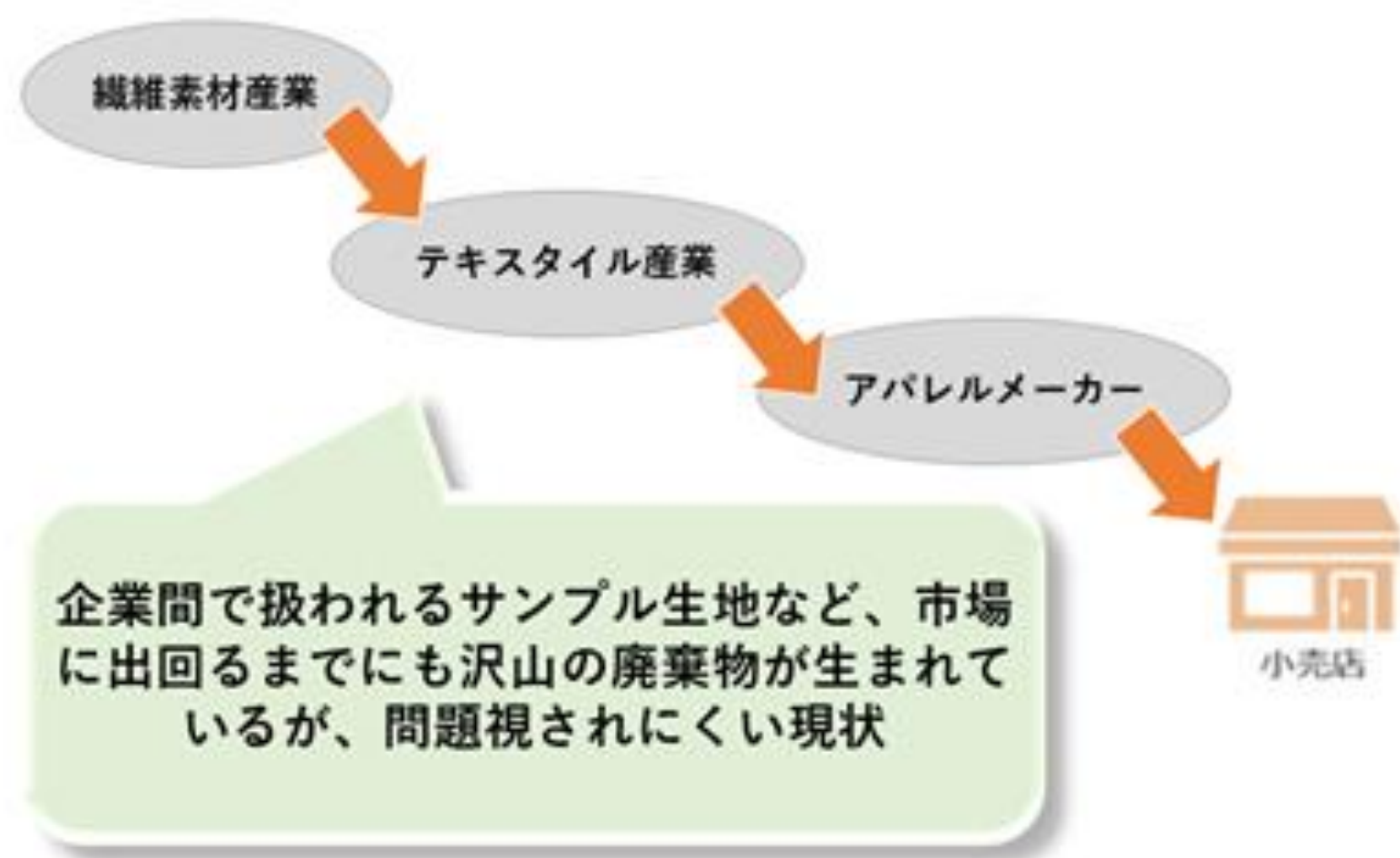


図3 繊維商社の実態

出典：繊維製品の資源循環システムをめぐる現状と課題（R5.1.20）経済産業省製造産業局生活製品課

## 6. 就労継続支援B型の実態と将来像

就労継続支援B型（以下B型とする）では、利用者の特徴を捉え取り組みやすいように単価の低い軽作業を多く行っているため、平均工賃は年々増加傾向にあるが、令和元年度で「16,369円」とまだまだ低く、増加も緩やかである。しかし利用者の方が自立し、安定した生活を送るためには障害者基礎年金と工賃を合わせて、生活保護や年金と同額の収入を得る必要がある（図4）。

また、B型の役割として一般企業での就労に向けた支援

も挙げられる。しかし実態として、B型から一般就労に移行する利用者の割合は、就労移行や就労継続支援A型を利用していた利用者の割合に比べ少ない傾向にある。そこでB型利用者の一般就労への移行を増やすため、B型事業所におけるQWL（Quality of Working life）を上げる必要がある。中尾（2017）<sup>11</sup>によれば、B型事業所におけるQWLとは、障害者の自己実現を最大の目標に置きながら、安心安全な環境で柔軟に働くことができ、働くことを通して他者の役に立っている、自己実現ができていてと本人が働きがいや働く喜びを実感できること、実態に応じた保険等が適用されることである。そのため、B型の作業を通して多くの人と関わり、商品が実際に完成していく過程を自身の目で見ることで、働きがいや働く喜びを実感させる。そして、働くことに対する意欲を高め、一般就労へ移行するB型利用者の増加を目指す。

ululaでは、商品製作過程を障害者の方にできるだけ多く担当してもらええるデザインの考案に力を入れているため、商品が完成するまでの過程を自身の目で見て働きがいや働く喜びを実感することができる。

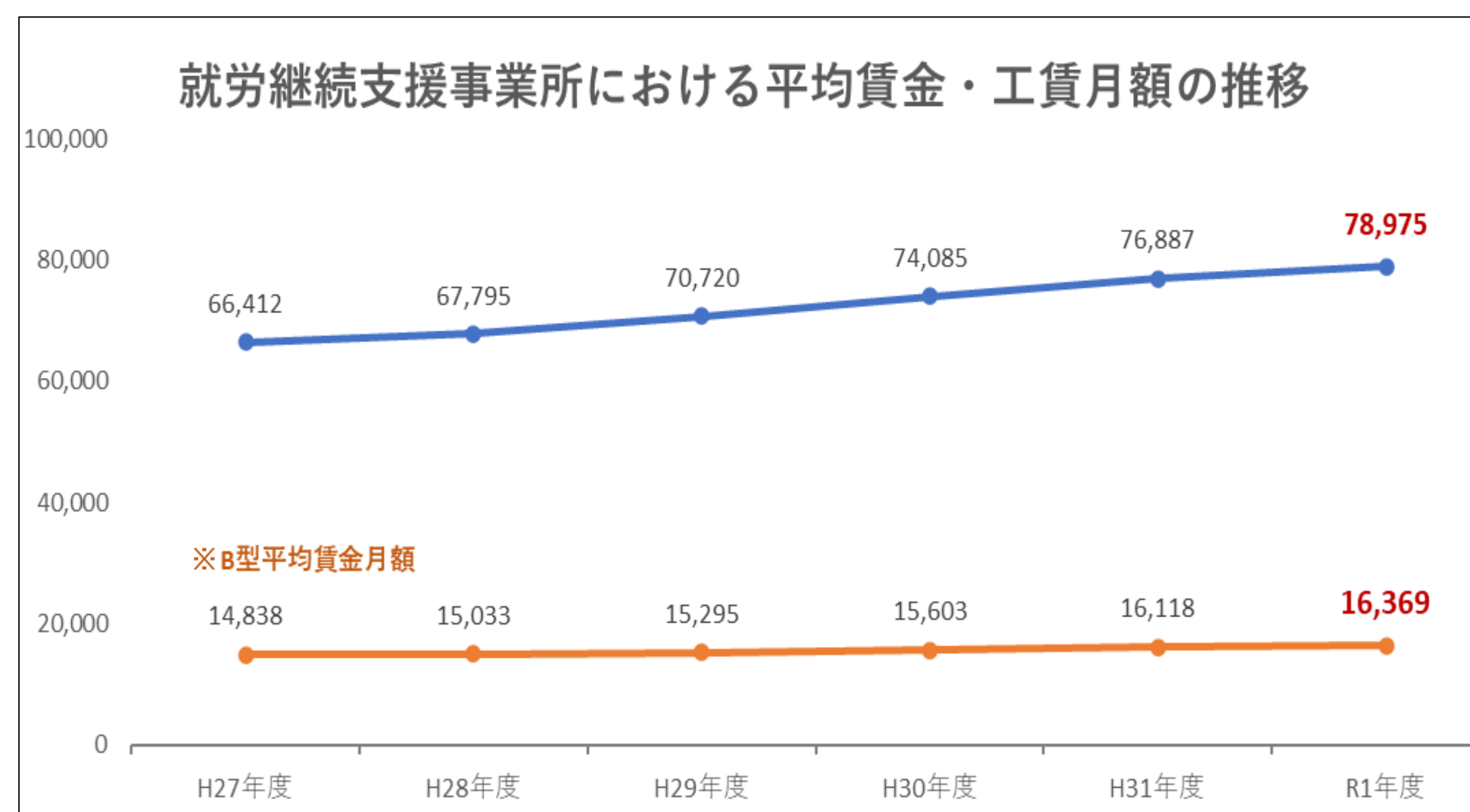


図4 就労継続支援事業所における平均賃金・工賃月額

出展：障害者の就労支援について（R3.6.21）厚生労働社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課

## 7. アクセサリーのワークショップ・販売

2022年度に製作していたアクセサリーに加え、ミモザのコサージュ・イヤリング、カモミールのヘアアクセサリーを新しく製作した（図5）。

ミモザのコサージュ・イヤリングは、3月に出店予定であった星が丘天文台マルシェに向け、3/8の国際女性デーに合わせミモザの花をモチーフにしたアクセサリーを提案した。ミモザに使用した黄色の糸は、環境に配慮し玉ねぎの皮やクチナシを用いて染色を行った。

カモミールのヘアアクセサリーは、7月にオアシス21日曜アトリエへ出店する際、子ども向けの商品を追加したいと考え、ヘアピン・ヘアゴムを提案した。アクセサリー考案時に、学生の負担を減らし、名身連に発注する仕事量を増やすことを重要視していたため、これまで名身連に製作を依頼していた糸ボンボンをメインパーツとして使用できるミモザのデザイン考案に至った。

また、2022年度は布を花の形に切り取る作業を学生が手作業で行っていたが、2023年度からは学生の負担の低減と品質向上のために、レーザー加工機を用いて作業の効率化を行った。

ワークショップはヘアアクセサリが500円、ブローチが1000円。物販は、ピアス・イヤリング・ブローチ・バレッタが1000～1500円、チャームが500円で販売を行っている。



図5 2023年度考案アクセサリ



図6 ワークショップの様子

## 8. スモックプロジェクト

2022年度から引き続き、愛知県内の保育園で使用する園児用スモックの製作を行った。新しく開設された園をイメージしたパターンを合わせた計11パターンを考案し（図7）、合計84着のスモックを提供した。2022年度からの変更点として、腕周りにリブを用いるのではなく、共布にすることでより縫いやすく、余りが出ないように工夫している（図8,9）

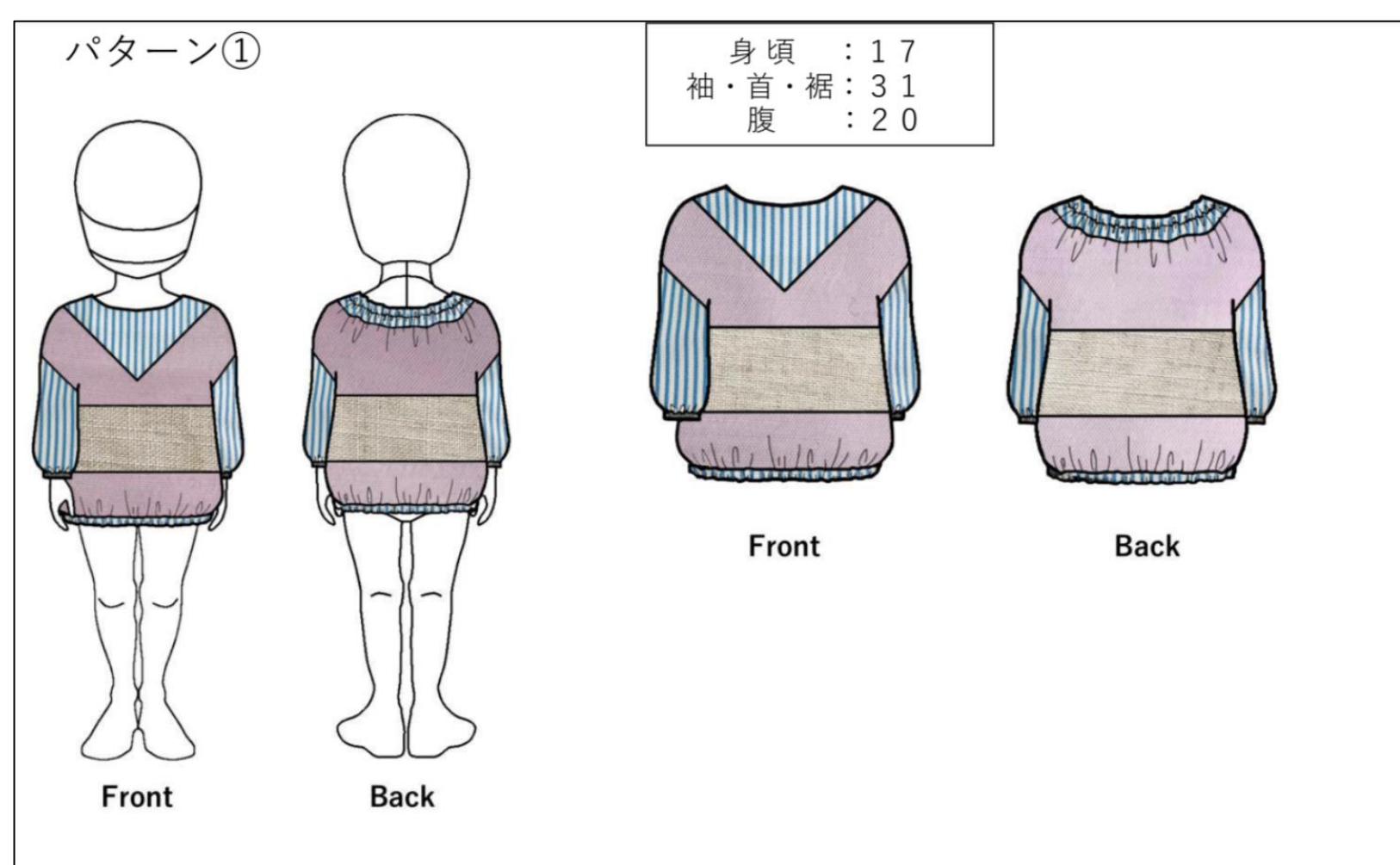


図7 スモックデザイン案の一例（パターン10）



図8 名身連での縫製作業の様子



図9 完成写真

## 9. あずま袋プロジェクト

企業が行っている食品のフードロスを減らすための取り組みに使用するためのエコバッグを提案するにあたって、あずま袋型のエコバッグを考案した。

あずま袋とは、風呂敷や手ぬぐいなど布を直線で縫うだけで完成する袋のことをいい、江戸時代に西洋のカバンを見た町民が風呂敷や手拭いを使い、真似して作ったことが始まりといわれている。

従来のあずま袋は長方形の布から作るため、持ち手が短くバッグとしては使いづらく、既存の長方形のあずま袋は裁断の際に余り布が出てしまうといった問題点があった。そこで、パターンを改良し、裁断方法を見直すことで余り布を出さずに持ち手の長いデザインを全12パターン考案した（図10）。名身連で普段行っている作業内容に近い工程（直線縫い）で構成されているデザインにすることで、あずま袋製作にかかるすべての作業を依頼できるようにした。また、名身連で作業の様子を見学させていただいた際に、布団カバーを作っている様子から着想を得て、直線縫いの途中にひも状の布を縫い込む作業と同じ手順でできる布タグを初期デザインに採用した（図11）。

最終案では、縫い線全体に布耳やフリルを縫い込むことで普段廃棄している布耳部分を無駄にせず、全体のアクセントにもなるようなデザインにした（図12）。

布の耳付きと耳なし、フリル付きの3種類があり、耳無し3点、耳付き5点、フリル付き4点を発注した。耳付きと耳無しが工賃600円、価格1300円、フリル付きが工賃700円、価格1500円で販売を行った。

**従来のあずま袋**  
長方形の布から作る

持ち手が短くて使いづらい

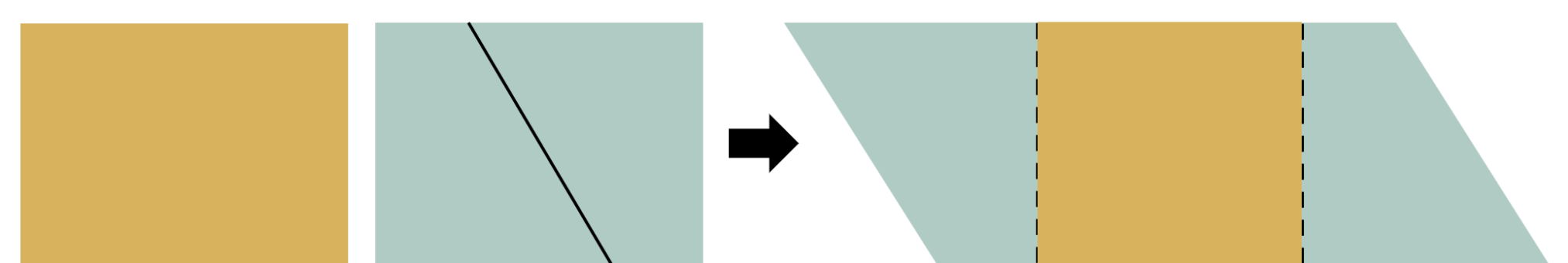
**既存の長方形のあずま袋**

余り布がでてしまう

### ululaのあずま袋

長方形を2枚裁断する

うち1枚を斜めに裁断し、組み合わせて平行四辺形を作る



- 平行四辺形にすることで持ち手が長くなる
- 余り布が出ない
- 組み合わせが自由で様々なデザインを作れる

図10 あずま袋従来のパターンとululaのパターン比較



図11 初期案



図12 最終案

## 10. プロモーション活動

本プロジェクトに関して、3件のテレビ取材を受け、1件のラジオ番組に出演した（表1）。10/5、6放送のニュース番組では、SDGs Aichi EXPO出展会場において活動内容の取材を受けた。また、10/30放送のニュース番組では、瀧定名古屋で実際に未利用繊維素材が集まる様子やその生地たちに込められた思い、名身連では実際に障害者の方が作業に取り組む様子、椋山では学生が製作に取り組む様子や活動に込められた思いなど、ululaに携わる3団体それぞれの活動意義や思いについて取り上げていただいた。

9月9日放送のラジオ番組では、瀧定名古屋の社員の方を交え収録を行い、ululaの活動を通して更に社内でのアップサイクルに関する活動が広がり、より多くの方々に瀧定名古屋の生地の魅力が届けられていること、ululaの活動を通して変化した我々学生の考え方について話をした。



図13.14 ZIP-FM77.8 収録の様子



図15 東海テレビ NEWS ONE 取材の様子

## 11. 2023年度の収支

2023年度は、純利益が¥152,892、名身連への工賃が¥133,550となった。今年度から制作を始めたあずま袋は、全工程を名身連にお願いするため、単価を高く設定することができた。

表2 2023年度収支

収入（物販・ワークショップ）	¥371,600
支出（パーツ代・工賃・雑費）	¥226,782
うち名身連工賃	¥133,750
純利益	¥144,818

## 12. ウェルフェアトレードの実現

ululaでは、ウェルフェアトレードの実現を目指して、受注生産制を取り入れている。そうすることにより、作り過ぎによる廃棄を防ぎ、大量生産による生産者側の負担を軽減することを目指している。また、名身連の意向に沿った価格設定を行っている。作業の難易度や作業効率などを考慮して名身連の職員さんからご意見をいただき、適切な価格設定を行っている。その設定された価格の中にデザイン料も含まれているため、デザインの工夫や商品自体の価値を表現している。

## 13. まとめ

我々が2023年度プロジェクトの目的として掲げてきた、「本来の意味で障害者の活躍を推進する」という点において、繊維商社や就労継続支援B型の実態や課題を改めて見つめなおした。そして、発注方法の見直しやデザインの工夫を行うことで、よりウェルフェアトレードに近づけたのではないかと考える。また、様々な活動の場を通して新たな繋がりが多く生まれ、ululaの活動により多くの方がウェルフェアトレードに対する意識を高め、アップサイクルに関わるきっかけとなっていることを感じるとともに、今後も活動を継続していくための道筋ができ、新たな活動の場を広げることができた。

本プロジェクトで挙げられた、繊維商社とB型についての課題を解決するためには継続することが最も重要であると考えます。今後、ululaの活動を後輩やサポートメンバーに引き継ぎ継続することで、これらの問題がより多くの人々にされ、改善が進んでいくことを期待する。

## 参考文献

- 1) 中尾文香：『障害者への就労支援のあり方についての研究－就労継続支援B型事業所をフィールドにした混合研究法による考察－』風間書房、326頁(2017)
- 2) 図3 出典：繊維製品の資源循環システムをめぐる現状と課題（R5.1.20）経済産業省製造産業局生活製品課
- 3) 図4 出典：障害者の就労支援について（R3.6.21）厚生労働社会・援護局障害保健福祉部障害福祉